

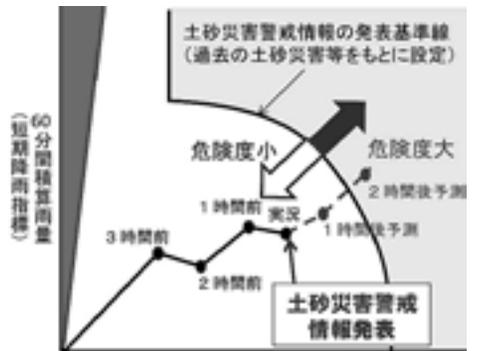
土砂災害および河川洪水の 避難勧告などの発令基準を策定

市は、土砂災害など大雨時の市民の円滑な避難を実現するために、大雨災害時にどのような状況において、どのタイミングで避難勧告などを発令すべきかなどの判断基準について定めました。詳細は左表の通りです。避難勧告など

は、緊急速報メール、北上ケーブルテレビの文字放送、市のホームページ、フェイスブック、消防車両による広報などで情報を伝達します。また、この避難勧告などの発表基準や土砂災害危険箇所について、住民説明会を行います。

	土砂災害	河川の洪水災害
避難準備情報	<ul style="list-style-type: none"> 大雨警報(土砂災害)発令下で岩手県土砂災害警戒システムの予測値で3時間以内に雨量状況曲線が土砂災害発生危険基準を超える場合 大雨注意報が発表されて、当該注意報の中で、夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が言及されているとき 強い降雨を伴う台風が夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合 	<ul style="list-style-type: none"> 水位が、氾濫注意水位に到達し、なお水位の上昇が予想される場合
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害警戒情報が発表された場合 大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、記録的短時間大雨情報が発表された場合 土砂災害の前兆現象(湧き水・地下水の濁り、溪流の水量変化など)が発見された場合 	<ul style="list-style-type: none"> 水位が、避難判断水位に到達し、氾濫危険水位に到達すると予想とされる場合
避難指示	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害警戒情報発表下で、記録的短時間大雨情報が発表された場合 土砂災害警戒情報発表下で、土砂災害が発生した場合(土砂災害がまだ発生していない近隣地区も、災害発生の可能性が高いため、勧告から指示に切り替えます) 	<ul style="list-style-type: none"> 水位が、氾濫危険水位に到達し、なお水位の上昇が予想される場合 堤防の決壊に繋がるような漏水箇所などを発見したとき 堤防の決壊や越水の恐れがあるとき 破堤または越水が発生したとき

※大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度が非常に高まったときに、対象となる市町村を特定して県と気象庁が共同で発表する防災情報。



土壌雨量指数(長期降雨指標)
土砂災害警戒情報の発表基準

河川	北上川			和賀川			釜ヶ石川		
	男山 水位観測所	男山 水位観測所	安野 水位観測所	男山 水位観測所	男山 水位観測所	安野 水位観測所	男山 水位観測所	男山 水位観測所	安野 水位観測所
河川	はん濫危険水位(危険水位) 甚大な災害が起るおそれのある水								
	4.10m	4.10m	4.60m	4.10m	4.10m	4.10m	4.10m	4.10m	4.10m
	避難判断水位 避難等の参考になる水位								
	3.90m	3.90m	4.10m	3.90m	3.90m	4.10m	3.90m	3.90m	3.90m
	はん濫注意水位(警戒水位) 水防団が出発する水位								
	3.30m	3.30m	3.00m	3.30m	3.30m	3.00m	3.30m	3.30m	3.00m
水防団待機水位(指定水位) 水防団が準備を始める水位									
	2.40m	2.40m	2.00m	2.40m	2.40m	2.00m	2.40m	2.40m	2.00m

希望郷いわて国体・いわて大会 わんこきょうだいのビニール袋でPR

同国体の北上市の実行委員会に対し、サトウグリーンエンジニアリング株式会社会社(東京都目黒区)から国体PRキヤラクターわんこきょうだいがプリントされたビニール袋、2万袋が協賛品として提供されました。同社は市内に

事業所のあるサトウグリーンティンク株式会社系列会社です。協賛品はアジアマスターズ陸上競技選手権大会や、いわて北上マラソン大会の参加者に配布予定で、その後も国体関連イベントで使用され、2年後に迫った同国体をPRします。



協賛のビニール袋

市内の避難者状況

(8月31日現在)

野田村	田野畑村	宮古市	山田町	大槌町	釜石市
1世帯	1世帯	10世帯	27世帯	70世帯	50世帯
3人	4人	17人	63人	134人	125人
大船渡市	陸前高田市	宮城県	福島県	市内間	
14世帯	31世帯	20世帯	19世帯	2世帯	
30人	56人	47人	46人	2人	

※市で把握している人数です。市内に避難している人で、まだ北上市に連絡していない人はご連絡ください。

北上信用金庫と地域経済活性化に向けた 包括連携協定を締結

北上信用金庫(高橋道夫理事長)との地域経済活性化に向けた包括連携協定調印式は17日、本庁舎で行われました。ふるさと北上応援寄附(ふるさと納税制度)の寄附者向けの返礼品・サービスの取り組みを通じ、地域産業振興を目指すもので市内事業者に対する制度の周知、商品・サービス開発、ブランド化などの支援などを行います。

同信用金庫のネットワークを

クを生かし、市では開拓することのできない企業を市に紹介し返礼品の拡充をサポート。市は新たな製品を同寄附の返礼品として扱うことで企業のPRに繋げようとするものです。

さらに、全国の信用金庫が開催するビジネスフェアなどを活用し首都圏への情報発信も行います。同寄附の周知や市の特産品をPRし、市外からも理解・共感をえられるよ

観光案内タッチパネルを北上駅に設置

観光案内タッチパネル設置に係る除幕式は17日、北上駅構内で行われました。

高橋市長、東日本旅客鉄道株式会社(向久保文一北上駅長、北上コンピュータ・アカデミーの吉川一郎校長、一般社団法人北上観光コンベンション協会の関根敏伸副会長らが出席。除幕式の後、タッチパネルのコンテンツを作成した同アカデミーの佐久間俊

成さんから内容説明が行われました。

タッチパネルは三菱製紙グループのダイヤミック株式会社(東京都墨田区)製。東日本旅客鉄道(株)の協力により北上駅に設置され、コンテンツは同アカデミーがボランティアで作成しました。日・英・韓・中の4言語で、国内外から訪れる観光客に市の観光スポットなどを紹介するもので



握手を交わす高橋市長(左)と高橋理事長(右)



高橋市長ら関係者で除幕を行いました

うな魅力ある地域づくりを目指します。

ふるさと納税制度に関する地方自治体と金融機関の協定は全国初の締結となります。

す。同アカデミーでは今後もコンテンツを追加し内容を充実させる予定です。



災害心理のウソ・ホント

9月は防災の月である。先月の広島市の土砂災害では多くの犠牲者が出てしまい、心からご冥福を祈り、お見舞いを申し上げたい。

災害が起きるたびに考えさせられることは、なぜこのような事態を予測できないのかである。しかも、大雨、洪水などの気象情報が出ているにもかかわらず、わざわざ川の様子を見に行つて犠牲になる人がいるのは何ともはや不可解である。

災害心理学の専門家である、東京女子大学の広瀬弘忠教授は著書「人はなぜ逃げおくれるのかー災害の心理学」の中で次のように述べている。「私たちひ弱な現代人は、かに危険に直面しても、それを感知する能力が劣ってい

る。台風や洪水、津波などの災害時に、避難勧告や避難指示が出された場合でも、これに従う人びとは驚くほど少ない。…災害心理学の観点からすると、人間はなかなか動くうとしない動物なのである」

一方、避難情報を出す自治体側はどうか。その多くは社会一般の常識として「地震や火事に巻き込まれると、多くの人びとはパニックになる」と思い込んでいるというのではない。「多くの人びとはパニックにならない」の方が正しいのである。自治体が避難情報の発信を躊躇(ちゅうちゆ)するのは、このパニック神話とも言える迷信に惑わされているからだと言う。北上市ではこれを教訓に、空振りを恐れずに、また躊躇すること無く、避難情報を出すこととしたところである。

天高く馬肥ゆる秋は、一方では台風シーズンでもある。気象情報や自治体が出す避難情報にしっかりと耳を傾けて、ご自身をはじめ、ご家族の身をしっかりと守っていただきたい。